

令和 6 年度

大阪府立水都国際中学校及び大阪府立水都国際高等学校

指定管理法人業務 事業報告書

1 特定公立国際教育学校等の概要

名称	大阪府立水都国際中学校 大阪府立水都国際高等学校
所在地	大阪市住之江区南港中3丁目7番13号
設置形態	学校教育法第71条に規定する併設型中高一貫校
設置学級数	中学校 3年 6学級（238名） 高等学校 3年10学級（451名）

2 指定公立国際教育学校等管理法人（指定管理法人）の概要

法人名	学校法人大阪YMCA
主たる事務所の位置	大阪市西区土佐堀1丁目5番6号
代表者	理事長 末岡 祥弘
担当役員	理 事 山根 一毅
担当者	課 長 小西 雄希
連絡先	06-7662-9600
指定期間	令和4年4月1日～令和11年3月31日
報告対象期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

3 指定管理法人業務の実施状況

（1）管理運営上の目標 中高共通

＜教育目標＞ 「社会に貢献する共創力をみがく」

主体性…強い意志と使命感を持って、自ら考え判断し、行動する資質・能力。

寛容性…多様な価値観やその背景を心広く、受け入れる資質・能力。

探究心…よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力。

＜課題＞

- ①生徒・保護者に開かれた学校づくりの一層の推進
- ②安定した学校運営を行うための教職員の計画的な採用・登用
- ③公開授業の一層の推進
- ④海外進学者数の一層の推進
- ⑤IB 認定校との連携

＜重点目標＞

- ①生徒総会・保護者会を実施する。
- ②教員採用における経歴確認並びに教職員の評価・育成に関するシステムの整備を一層強化する。③本校の実践内容等を他の府立学校に周知し、大阪府の特色ある教育を推進する拠点校としての役割を担う。
- ④海外ネットワークを活用した教育活動を一層推進する。
- ⑤IB 認定校の連携と研究を一層推進する。

(2) 具体的な取組とその結果

1. 中高共通

①生徒・教職員が安心して生活できる環境づくりを行う

いじめや不登校等に関して、学校内での課題や指導方針等に関する共通理解を深めるとともに、管理職及び WB (well-being) 部主任がいじめに関する研修に参加し、その成果を校内の教員に還元した。また、いじめ対策委員会を必要に応じて開催し、いじめ等の問題に組織的に対応し、生徒及び家庭支援を行った。さらに、今年度はハラスメントに関する研修にも力を入れた。生徒に対しては、全校集会などの機会を利用して適宜いじめや人権について考える機会を設けた。保護者に対しては学校通信等を通していじめに関する情報提供を行い、学校と家庭が連携し生徒支援することの重要性等について理解促進を図った。

防災及び安全対策について、新築棟での防災対策として、住之江消防と連携し2回の避難訓練を行い、災害時の避難方法について生徒に周知した。また、不審者対策の教員研修を、住之江警察と連携し行い、教員の危機管理向上を図った。このような学校の取組みを保護者に発信し、学校と家庭との連携を深めた。

②進路指導を強化する

海外大学進学等、本校の生徒の多様な進路に対応するため、生徒一人ひとりの特性に応じた丁寧な進路指導を行った。海外大学については、生徒・保護者の理解を深めるために、海外大学説明会を3回実施し、総領事館と連携したキャリアガイダンスや奨学金説明会も行った。さらに、高校2年次には、希望者全員が参加できるマレーシア海外研修を実施し、海外大学等に関する生徒の興味・関心を高めることができた。今後も生徒の興味に応じた多様な国際交流プログラムを生徒に提供していく。

国内大学については、多くの生徒が利用する探究学習の成果を活用した総合型選抜について、生徒が考える機会を提供し、国公立大学を含めた多様な進路の可能性を生徒が主体的に調べる機会を設け、進路意識の早期向上を図った。

完成年度となる本年度では、総合型選抜の合格後も高い目標を持ち、一般選抜の合格を目指すなど、進路に対して積極的な姿勢を示す生徒が増加した。海外大学合格者数および国公立大学合格者数が延べ60名を超え、これからの本校の進路指導計画を立案する上で一つの基準となる結果となった。

③校務整理と人材育成を図り、教育効果の高い学校運営を行う

国際バカロレア (IB) ワークショップ研修及び探究型授業に関する研修に20名の教員が参加し、課題解決型学習の指導力の向上に努めた。昨年度同様、海外からの来客、訪問が非常に多く、年間で延べ80名を受け入れた。効率的かつ効果的な受け入れにするため、本校の外国籍の教員を中心に Welcome Assembly 等の企画・運営を行った。

また、大阪府教育庁主催の研修はじめ、校務に関する研修にのべ35名の教員が参加し、指導力の向上や校務の理解が進んだ。

④開かれた学校づくりを行う

学校の特色ある教育活動について、教員による出前授業を2回行い、教育委員会と連携し、本校の特徴的な取り組みについての教育研修を4回行った。出前授業は、インターナショナル教員が担当し、大阪市立友渕中学校の生徒32名及び大阪市立茨田北中学校の生徒18名を対象に実施した。

また、保護者組織の設立に向けて準備会を発足させ、令和8年度の本格始動を目指し準備を進めている。準備会においては保護者と学校の連携の在り方について活発な意見交換が進んだ。なお、令和7年度中に可能な範囲で保護者会の活動を開始する予定である。

⑤助成金取得によるプログラム展開

三菱みらい教育財団の助成の2期目の受託1年目となる令和6年度は、引き続き「Suito Action Project for SDGs（以降、SAという）」という通年の講座を開講した。これは中1から高3までの学年を超えた異年齢によるプロジェクトチームを生徒が結成し、生徒たちが主体的にSDGs達成するためにどのようにして社会問題を解決していくかを探究する学習である。4年目となる令和6年度も、多くの生徒が外部コンテスト等にチャレンジ複数のプロジェクトで高い評価を得ることができた。全てのプロジェクトは、2月に本校にて開催したアカデミックフェアで発表を行った。令和6年度末には、SAのプロジェクトで関係しているザンビアに、教育旅行の開拓準備として教員2名が下見に赴き、令和7年度末の実施を計画している。

2. 高等学校

①学力向上

高校1年次の数学において、英語習熟度や数学の理解度に応じた習熟度クラスを設定した結果、高校1年数学の外部評価基準（GTZ）のC・Dゾーンの生徒の割合を40%以下にするという目標に対し、15%という結果を残し、昨年度同様、大きく目標を達成した。また、英語検定に向けた補習の実施を継続し、高校1年生の英語力を向上させることができた。

高校1年次においては、内進生と新入生でクラスを分けることで、それぞれに必要な支援を効果的に行うことができる体制を整えている。新入生に対しては、入学後にICTや探究型授業で必要なスキルに関する講座を実施した。インターナショナル教員によるイマージョン授業においては、日本人教員やESL教員による継続的なサポートを行った。

②IB教育を推進する

IB教育に関する基礎的な理解を深めるため、高校1年生全員を対象にIBに関する説明会を開催した。また、ミスマッチを防ぐため、IBコースの履修を希望する生徒・保護者を対象とした説明会を開催するとともに、IB学習に関する生徒研修会を計21回実施した。結果、令和7年度高校2年IBコース選択者は18名になった。

令和6年度のIBコース卒業生の結果について、今年度は初めて中学校1年生から6年間本校で学んだ生徒が挑んだIB試験だったが、ディプロマ取得率90%、平均スコア33.5点と世界平均を大きく上回る高い成績を残すことができた。

IB事務局による5年毎の再認定の審査についても良好な評価をいただいた。

③個性を見つけ、そのスキルを伸ばす

探究、TOK(知の理論)を通して、個々の生徒の興味の方向性を理解させ、成果発表の場を2回設定した。IB認定校として学校全体を通じて、校内にとどまらず広く校外のコンテスト等を周知する体制や積極的に参加する機運が醸成されており、コンテスト等の受賞者も多く輩出している。また、探究の取り組みにおいて、学会発表やコンテスト結果をアピールし、総合型選抜、学校推薦型、海外進学等につなげていく生徒が進学者の66%を占め、本校の探究活動が多くの生徒の進路実現に繋がっている。

大阪・関西万博を、生徒の更なる学びと成長の好機として捉え、参画を積極的に推進し

た。現時点で、大阪府立学校万博学園祭におけるステージ発表と通訳・体力測定ボランティア活動、防災をテーマとしたイベントにおける防災部の取り組みの発表、ワークショップの発表等、校外活動としての訪問とは別に、延べ 11 のイベント・活動において、54 名の生徒が参画を予定している。万博の終了まで、さまざまな機会を活用していく。

3. 中学校

①学力向上

外部教育産業の方を講師として招へいし、生徒・保護者対象の進路説明会を開催し、大学進学を見据えた進路指導を実施した。各学年、保護者に向けた学年通信を年 6 回発行し、発達段階に合わせた取り組みを積極的に発信した。

②IB 教育の推進

TOK(知の理論)につながる批判的・論理的思考力の育成を目指し、週 2 時間 CL(クリエイティブラーニング)の時間には、仲間と協働しながらプロトタイピングツールを活用して、成果物を制作した。結果、課題発見テスト標準レベルにおいて、当初の目標を大きく上回ることができた。

成果物については、全てのチームがクラス内で発表を行なった。また、教育関係者や活動に関連する企業・団体、保護者を対象とした公開イベントである「アカデミックフェア」においては、各学年の代表チームが発表を行った。

③個性を見つけ、そのスキルを伸ばす

希望する生徒を対象にハワイ・オーストラリア研修及びホームステイなどを実施し、中学生という早い段階で実践的な英語によるコミュニケーション力を向上させるとともに多文化理解を深めることができた。また、学校内で開催した Global Day などを通じて、中学生の段階で多く英語にふれる機会を設けた。

このような取り組みの結果、CEFR B1 レベルの生徒の割合が中学 3 年生の当初の目標を大きく上回った。また、外部コンテストへの出場機会は、全生徒参加の 100%を達成するとともに、コンテストでの上位入賞などの結果を残すことができた。

(3) 教育課程

1. 中学校教育課程について

別紙 1-1 中学校教育課程表に基づいて実施した。

2. 高等学校教育課程について

別紙 1-2 ～ 4 高等学校教育課程表に基づいて実施した。

3. 英語を用いた授業の実施状況

①中学校

英語、数学、理科、グローバルスタディーズの授業で英語を用いた授業を行った。副担任にネイティブ教員を配置し、ホームルームの一部について英語を用いて実施した。

②高等学校

英語、数学、理科、グローバルイシューの授業で英語を用いた授業を行った。副担任にネイティブ教員を配置し、ホームルームの一部について英語を用いて実施した。IB コース生に関しては、担任にネイティブ教員を配置し、英語、数学、化学の授業は英語で行った。

(4)年間行事

別紙2の 年間行事予定表に基づいて実施した。

(5)入学者選抜の実施状況

<中学校>

日 程：令和7年1月25日

志願者数：294名

合格者数：80名

<高等学校>

日 程：令和6年2月20日、21日

志願者数：120名（特別選抜 105名、帰国生選抜 15名）

合格者数：82名（特別選抜 74名、帰国生選抜 8名）

(6)卒業者の状況

別紙3 進路・合格実績（令和7年5月7日現在）

(7)高3生（3期生）のIBスコア結果

1 フルディプロマ取得について

・フルディプロマ取得率：90%

2 科目サーティフィケート（IBコース生以外）について

・IB知の理論（TOK）2名

(8)英語力の状況（令和7年3月31日時点）

中学校

	CEFR A1	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2	CEFR C1
中学1年	9名	66名	6名	0名	0名
中学2年	1名	45名	29名	3名	0名
中学3年	1名	33名	36名	6名	0名

高等学校

	CEFR A1	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2	CEFR C1
高校1年	1名	55名	83名	16名	0名
高校2年	3名	40名	90名	13名	3名
高校3年	1名	20名	65名	36名	5名

(9) その他処分の状況

処分等		中学校	高等学校
懲 戒	退学	0 名	0 名
	停学	0 名	2 名
	訓告	1 名	0 名
転入学、編入学		0 名	0 名
転出、退学		0 名	7 名
休学、留学		0 名	11 名

(10) 民間知見を活用した教育活動の状況

IB コア科目の CAS 活動において、専門知識を有した経験豊かなボランティアの「YMCA アンバサダー」を活用した教育活動を実施した。また大阪 YMCA インターナショナルスクールとの連携の中で IB 教育の推進に関する研究を行った。

柔軟な人事採用により、教員が教育活動に専念できるよう事務職員の配置を行った。また、YMCA のグローバルネットワークを活用した海外校の連携については、姉妹校候補としてサンディエゴにある High Tech High を視察しアプローチを行った。ザンビア YMCA との連携の中で次年度に向けた海外研修旅行の企画のための現地教育機関および国際団体の視察を行った。

(11) 教育上特別の配慮を必要とする生徒への支援等の状況

YMCA より専門家（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー）を派遣してもらい、特別支援委員会を定期的開催し、当該生徒の学校生活の様子を把握し、対応した。また、生徒理解に努め、保護者の思いに寄り添い、個別の支援計画の作成を行った。

(12) 管理施設の補修・修繕、更新等の状況

- ①防火扉不具合修理
- ②技術室コンセント破損箇所修理
- ③正門電子錠のヒンジ修理（瑕疵点検に係る補修）
- ④新築棟壁補修（瑕疵点検に係る補修）
- ⑤プール シャワーエリア 塗装剥離修繕（瑕疵点検に係る補修）
- ⑥新築棟3階 IB 美術室、ライブラリー エアコン漏水メンテナンス
- ⑦2階 男子トイレ壁修理
- ⑧4階 4B 室 窓ガラス修理
- ⑨体育館空調工事（大阪府請負工事）
- ⑩体育館 雨漏り修繕（瑕疵点検に係る補修）
- ⑪外壁&手摺 塗装補修（瑕疵点検に係る補修）
- ⑫3階食堂・3階進路資料室 空調工事実施
- ⑬室外機ファンモーター不良修理
- ⑭ウォーターサーバー新規設置（計5か所）
- ⑮アルソック回線アップデート（3G 回線廃止のため4G へ移行）

4 職員の配置状況

(1) 教職員の配置状況（令和6年5月1日時点）

職名	中学校		高等学校	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
校長	1 * 中高共通	0	0	0
副校長	0	0	2	0
教頭	1	0	0	0
主幹教諭	0	0	0	0
指導教諭	0	0	0	0
教諭	1 0	2	4 1	6 * 中高共通
養護教諭	1 * 中高共通	0	0	1
栄養教諭	0	0	0	0
実習助手	0	0	8	0
事務職員	1	0	2 4	1
学校用務員	1	0	1	0
計	1 5	2	7 6	8

(2) 外国人の教諭等の配置状況（令和6年5月1日時点）

職名	教員免許状	担当教科	担当校種	雇用形態
英語教諭（4名）	特別免許	英語	高等学校	常勤
数学教諭（4名）	特別免許	数学	高等学校	常勤
理科教諭（3名）	特別免許	理科	高等学校	常勤
指導助手（8名）	なし	英語・数学・理科	高等学校	常勤
ICT職員（1名）	なし	ICT	事務職員	常勤

5 管理代行料に係る収支の状況

(1) 収入

項目	金額
管理代行料	811,851,000 円

(2) 支出

項目	金額
人件費	574,625,005 円
消耗品費	28,256,926 円
備品購入費	5,192,000 円
光熱水費	21,461,966 円
管理委託費	34,775,999 円
渉外費	411,100 円
通信費	4,825,979 円
賃借料	23,140,736 円
保険料	2,733,916 円
租税公課	56,005,200 円
広報費	1,841,942 円
旅費交通費	11,332,491 円
会議費	237,601 円
報酬・委託・手数料	26,107,099 円
諸会費	2,237,962 円
修繕費	4,339,650 円
福利厚生費	11,451,240 円
研修費	2,582,425 円
雑費	291,763 円
計	811,851,000 円

6 その他取組の状況

(1) 個人情報保護の取組

- ・個人情報保護に必要な体制を整備し、適切に管理している。

(2) 情報公開の取組

- ・学校 HP を活用し、積極的な情報公開を適切に行っている。

(3) 教職員研修の状況等人材育成の取組

- ・教職員研修会及び OJT 等を用いて学内での人材育成の実施
- ・大阪府教育委員会主催の各種研修及び大阪 YMCA の研修に参加
- ・IB ワークショップに参加

(4) 入学希望者数増加に向けた取組

- ・学校説明会実施
中学校：4 回 / 高等学校：4 回
- ・外部団体等主催進学説明会等参加 年間 17 回
- ・中学校出前授業 2 校、学校教員対象説明会 2 回 等

(5) 大阪府の学校教育全体の拠点校としての取組

- ・ホームページ等を活用し積極的な情報公開、発信を行うと共にニュース・テレビ・新聞・雑誌などのメディアに多数取り上げられた。
- ・IB 研修オンライン動画の作成と発信を行った。
- ・年間 48 団体、延べ 251 名の学校視察受け入れを実施した。

(6) IB に関する取組

- ・中学校で「数学」「理科」「国際理解（学校選択教科）」等、高等学校で「数学」「理科」「グローバル探究（学校設定教科）」等の教科等について、英語による指導（イマージョン教育）を実施した。
- ・IB 受講生の取組の紹介
IB 科目の校内成果発表や中学生、高校 1 年生対象のワークショップなど、IB 受講生の取組により、学校内の IB 文化の継続的に醸成が図れた。
- ・CAS 活動について
青少年育成や奉仕に関して経験が豊富な Y アンバサダー（YMCA の OBOG）とオンラインにて生徒と交流会や発表会を実施したことにより、生徒の様々なプロジェクトが改善されるとともに、学校外のコミュニティが本校の IB 教育等についての理解を深める機会とすることができた。

(7) 地域との連携、活性化に寄与する取組

- ・地域活動協議会に参加した。
- ・Library Fairy（GAPS サークル活動）が、地域の書店と協働した。
- ・ゲートボール部が南港さざんか海のまち協議会と協働し、ゲートボール練習を実施した。
- ・水泳部が住之江警察署と共にランニングパトロールを実施した。

- ・ Suito Action Project for SDGs の活動として、さきしま小中一貫校の小学生に英語を継続的に教える機会を設けた。

(8) 大学・企業等との連携の取組

- ・ 米国サウスユタ州立大学 (Southern Utah University) と 教育連携協定 (MOU) の覚書締結
- ・ 米国カリフォルニア州立大学サンマルコス校と短期プログラム実施依頼及び教育連携協定締結打合せ (R7 年内に MOU 正式締結)
- ・ 米国カリフォルニア州サンディエゴ ハイテク・ハイスクール (ノースカウンティ一校) 姉妹校連携打診
- ・ カルガリー大学からのインターン生 2 名受入
- ・ U. S. Department of State とスピーチコンテストを実施
- ・ 在大阪オーストラリア総領事館 海外大説明会を実施
- ・ 大阪公立大学による出前授業を 3 回実施
- ・ 指定校推薦大学の確保増
- ・ 大阪観光局との連携によりマレーシアの中高生受け入れ実施
- ・ ハワイ James Campbell High School の生徒の受け入れ実施
- ・ Jockey Club Man Kwan Eduyoung College の生徒の受け入れ実施
- ・ マレーシアの SMK Batu Lintang Secondary School とのオンライン交流会開催
- ・ 中国上海の Greentown Yuhua School 国際交流実施
- ・ IDP Education IELTS 日本統括代表講演
- ・ 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館より総領事であるメラニー・ザクシンガー氏講演
- ・ スペインより、マドリード・カルロス 3 世大学 (Carlos III University of Madrid) の教授陣視察受入
- ・ タイ王国シラパコーン大学の教授陣及び同大学附属学校の教員視察受け入れ実施
- ・ Lane Community College 入学担当者大学説明実施
- ・ Tin Shui Wai Methodist College 国際交流イベント実施
- ・ カナダのカルガリー大学 Roswita Dressler 博士 講演
- ・ Seri Setia Secondary School とのオンライン交流会開催

(9) その他の取組

- ・ 他自治体教育委員会の学校訪問 等